

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2015年12月NO.38

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



子どもへの暴力のない世界を目指して

Freeキャンペーンのシンボルである蝶々を折り紙で折って
くださった清心女子高等学校の皆さん。
蝶々は「子どもたちの声」として国連に届けられました。

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、
アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集

「持続可能な開発目標」と
「子どもへの暴力のない世界」

特集 「持続可能な開発目標」と 「子どもへの暴力のない世界」

2015年9月の国連総会で、2030年までに目指すべき17の目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択されました。その中に、チャイルド・ファンド・アライアンス (以下、チャイルド・ファンド) が実現のために取り組んでいる「子どもへの暴力を撲滅させる」という目標が盛り込まれました。SDGsについてご紹介しながら、これまでのチャイルド・ファンドの活動についてご報告します。

「持続可能な開発目標(SDGs)」って？

2015年9月25日、ニューヨークで開催された国連総会で、2016年から2030年までに目指すべき新たな国際目標である「持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals)」が採択されました。貧困や飢餓、エネルギーや気候変動、格差や平和的社会など、持続可能な開発のための、17の目標と169のターゲットから構成されます。

SDGsは、2000年に策定されたミレニアム開発目標*1 (MDGs)の後継と位置付けられます。2015年12月が達成期限となるMDGsで取り残された課題に対応できるよう、新たな目標が設定されています。MDGsとの大きな違いは、MDGsが途上国の貧困削減を重要視していたのに対し、SDGsは持続可能な世界を目指すために社会、環境、経済の3つのバラ

ンスを重視している、ということです。そのため、目標の対象となるのは途上国だけではなく、先進国も含まれます。つまりSDGsは、すべての人々にとってより良い世界を作るため、今後15年間に、全世界で一丸となって取り組むべき目標ということができます。

そのような重要な目標であるSDGsに、子どもへの暴力という問題に関する項目が含まれるよう、チャイルド・ファンドは国際的なキャンペーンを行ってきました。*2

*1: 2000年に国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言と、1990年代に国際会議などで採択された国際開発目標を統合してまとめられた枠組み。

*2: チャイルド・ファンド・ジャパンは、「生かしかされる国際協力を通じて子どもの権利を守る」というミッションに基づき、アドボカシー (政策提言) を大切な活動と位置付けています。

チャイルド・ファンドの取り組み

世界では、子どもの約半数が8歳になるまでに身体的な暴力を受けています。それにも関わらず、MDGsには子どもへの暴力に関わる項目は含まれていませんでした。そこでチャイルド・ファンドは2013年より、“Free from violence and exploitation～子どもへの暴力のない世界を目指して～”という国際キャンペーンを開始しました。

チャイルド・ファンドが子どもへの暴力の問題に正面から取り組むことを決めた背景には、子どもを中心とした支援を行う団体として、実際の支援の現場での経験があります。子どもへの暴力が存在する環境が、子どもの成長する権利などあらゆる権利の保護にとって大きな障害となっていることが、チャイルド・ファンドが活動する世界各地で、大きな問題として認識されていました。チャイルド・ファンド・ジャパンの活動国の一

つであるフィリピンでも、暴力が様々な問題と結びついていると認識されてきました。そのため、スポンサーシップ・プログラムにおいても暴力をなくすためのプログラムを実施しています (裏表紙のコラム参照)。

しかし、現場での活動にも、限界があります。子どもへの暴力が撲滅されるためには、子どもが守られる仕組みが、法制度や行政システムとして整備される必要があります。私たち国際協力NGOが活動を進めていくうえで、「それは政府の役割では？」と問われることがあります。しかし、社会的課題の解決は、政府やNGOのどちらかだけが担うのではなく、両者が補完的な役割を果たすことが理想です。チャイルド・ファンドがFreeキャンペーンで目指したのは、現場で支援活動を行う私たちが分野を超えて、子どもが守られる社会的な仕組みを強化することです。そしてより大きな



チャイルド・ファンド・ジャパン独自の取り組みとして、キャンペーンのロゴマークの蝶々にならない、折り紙で蝶々を折って賛同を表明していただく活動も行いました。

そのため、キャンペーンの開始直後から行ったのは、賛同してくださる方の署名を集める活動でした。チャイルド・ファンド・アライアンスの加盟団体がある先進国だけでなく、全世界で署名を募り、世界中の多くの方々から署名が寄せられました。2014年12月には、それまでに寄せられた157カ国の285,000人の署名が、ポスト2015年開発アジェンダの国連事務総長特別顧問を務めるアミーナ・モハメッド氏に届けられ、子どもへの暴力をなくすという目標に向けた議論の大きな後押しとなりました。

また、子どもへの暴力の実態を把握するための調査や、子どもの声を聞く取り組みも行いました。2013年には、子どもへの暴力や搾取の現状を「子どもの視点」から理解するため、世界中の1,300名を超える子どもたちに暴力について話し合ってもらい、その結果を「子どもたちが語る暴力と搾取のない世界」と題する報告書にまとめました。2014年には、全世界の2,300人の子どもたちから、持続可能な開発に向けた

影響力を持つためには、1つの組織としてだけでなく、賛同くださる皆さまの声を集めて、大きな声で、国際社会に訴える必要がありました。

そのため、キャンペーンの開始直後から行ったのは、賛

将来の優先課題について話を聞き、「子ども憲章 子どもたちが考えるポスト2015年の開発課題」としてまとめ、発表しました。また、海外開発研究所(ODI)に委託し、子どもへの暴力が世界経済にもたらす損失についての調査を行いました。損失額は7兆ドルと見積もられるという結果を含む調査報告は「子どもへの暴力～その経済的な損失と影響～」と題する報告書にまとめられました。

2015年には「ショー・オブ・ハンズ!」として、ご賛同くださる方々、子どもたちに手形を紙に押しってもらうという活動を行いました。キャンペーンへの賛同の意思を、蝶々を形づくった緑色の手形で表現する、という取り組みです。

署名を集めることから始まったFreeキャンペーン。2015年9月、最終的に全世界で680,012人分もの署名を集めることができました。



「ショー・オブ・ハンズ!」には、俳優の市村正親さん、高橋克典さん、GMOインターネットグループ代表の熊谷正寿さんなど、著名人の皆さまにもご協力いただきました。

子どもたちへの暴力のない世界

そして、国連総会で採択されたSDGsには、子どもへの暴力をなくすという目標が含まれています。具体的には、目標の16.2に、「子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅させる」という目標が盛り込まれました。また、アジェンダの「宣言」の第8パラグラフには、目指すべき世界像として、「すべての子どもが暴力と搾取から解放される世界^{*3}」という、キャンペーン名がそのまま含まれている表記があります。

これは、Freeキャンペーンに賛同してくださった方々のような市民社会による大きな成果です。しかし現時点では、全世界が一丸となって子どもへの暴力のない世界を目指すということが決まっただけにすぎません。現実には、今でも、暴力に苦しんでいる子どもたちがいます。これからが本番です。チャイルド・ファンドは、少しでも早く子どもへの暴力のない世界が実現されることを目指して、活動を進めていきます。



国連総会では、日本政府国連代表部との共催で、「Celebrating Children's Voices for the #GlobalGoals」と題するサイドイベントを開催しました。これまでチャイルド・ファンドに、子どもへの暴力をなくすべきという意見を寄せてくれた子どもたちの参加を祝うことが目的でした。(2015年9月23日)

*3: 英語での表記は、「A world which invests in its children and in which every child grows up free from violence and exploitation.」

暴力をなくすため、スポンサーシップ・プログラムでの取り組み

フィリピン協力センターでは、家庭内暴力を無くすため、特に父親向けのセミナーを重点的に実施しています。自分が子どもの成長や家庭、地域で大きな役割を担っていることに、父親自身が気づき、変化することを目指しています。このセミナーに参加した父親の一人は、家族を傷つけることで、自分の心も傷ついていると気が付き、それが自分を変えるきっかけになり、親子関係、家族関係が改善されたと話しています。

2つの特設ウェブサイトが公開されています！

1つは、全世界から投稿されたハンド・プリンティングの画像が閲覧できるサイトです。

<http://wall.freefromviolence.org/>

もう1つのChildren's Voices for the #GlobalGoalsというサイトでは、「子ども憲章」や「子どもたちの小さな声 大きな夢」などの調査で得られた子どもたちの希望や提案のデータを視覚的に見ることができます。

<http://voices.freefromviolence.org/>

私たちが目指す世界

他団体と協力して作成された、子ども・若者向けのハンドブック『私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標」』の日本語版が完成しました。SDGsを分かりやすく説明した28ページの冊子です。ご希望の方には郵送いたします。また、ウェブサイトにPDFファイルを掲載しています。お問い合わせ、ダウンロードはホームページから
<https://www.childfund.or.jp/>



インフォメーション コーナー

お願い 書き損じた年賀状が子どもたちへの支援になります！

チャイルド・ファンド・ジャパンは書き損じハガキや切手を集めて、ネパールでの支援活動のために活用しています。2015年4月25日、ネパールで大地震が発生し甚大な被害が発生しました。お送りいただいた書き損じハガキは、倒壊した学校の再建など、被災地域の復興を支えるためにも活用されます。少量でも、どんなに古いものでも大歓迎です。ぜひお送りください！

○ 募集しているもの	× 募集していないもの
未使用の(書き損じた)年賀状、官製ハガキ(郵政ハガキ)、未使用の切手	使用済みの切手、外国切手、私製ハガキ(切手を貼らないと使用できないハガキ)、料金受取人払郵便のハガキ、テレフォンカード、印紙

<送付先> 〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
チャイルド・ファンド・ジャパン ハガキ係

お知らせ 領収証の送付について

2015年1月1日から12月31日までにご寄付いただいた金額分の領収証を、2016年1月下旬にお届けいたします。(ご寄付ごとに領収証を送付している分を除きます。)領収証は確定申告の際、寄付金控除の手続きに必要になります。チャイルド・ファンド・ジャパンは東京都より「認定NPO法人」に認定されており、ご支援くださる皆さまには所得税、法人税、相続税などの税制上の優遇措置を受けていただくことができます(控除の方法につきましては、お近くの税務署にご確認ください)。詳しくはチャイルド・ファンド・ジャパンのウェブサイトをご覧ください。

<https://www.childfund.or.jp/support/deduct.html>

チャイルド・ファンド・ジャパン 寄付金控除

Q検索

Ch^{id}Fund
Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

Ch^{id}Fund
Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ <チャイルド・ファンドだより SMILES> 2015年12月発行

〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長/高田和彦 事務局長/和山正秀
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: <https://www.childfund.or.jp/>

<デザイン>
モスデザイン研究所